

金沢城調査研究所年報 12

(平成 30 年度)

令和元年 6 月

石川県金沢城調査研究所

目 次

I 組織と運営

1 組 織	1
2 委 員 会	1
3 職 員	4
4 分 掌 事 務	4

II 事業報告

1 金沢城調査研究事業	5
2 金沢城資料収集・デジタル化事業	17
3 金沢城情報発信事業	18
4 その他の事業	21
事業費	29
石川県金沢城調査研究所日誌（抄）	30
金沢城に関する新聞報道	32

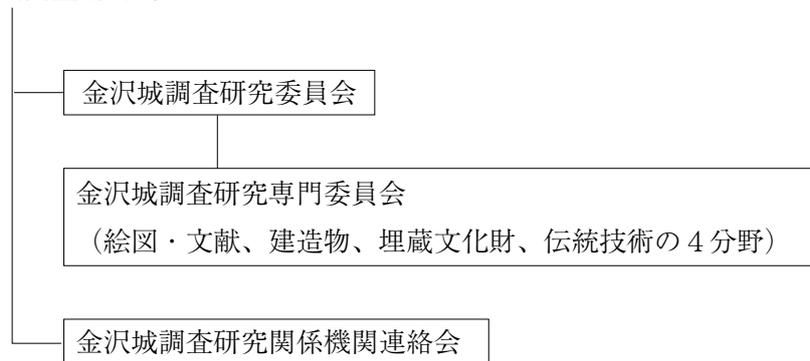
I 組織と運営

1 組織

(1) 沿革

平成13年7月、石川県教育委員会事務局文化財課内に設置された金沢城研究調査室は、平成19年4月に改組し、石川県金沢城調査研究所となった。平成14年度から本格的な調査研究事業に着手し、平成30年度は17年目となる。

石川県金沢城調査研究所



(2) 根拠法令

学校以外の教育機関等設置に関する条例 第2条

名 称	位 置	事 業 内 容
石川県金沢城調査研究所	金沢市	金沢城の調査研究及び普及に関すること

2 委員会

(1) 金沢城調査研究委員会

第1回は、平成30年7月12日に開催し、平成30年度の調査研究事業の概要について協議した。
第2回は、平成31年2月18日に開催し、平成30年度の事業成果について協議した。

(2) 金沢城調査研究専門委員会

絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の各分野ごとに会議や現地調査を実施し、各調査研究事業に関して、指導・助言を受けた。なお、埋蔵文化財と伝統技術（石垣）は相互に密接に関連することから、会議等は合同で行った。

絵図・文献専門委員会は7月24日・2月27日に、建造物専門委員会は3月13日に、埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会は6月1日・3月18日に実施した。

(3) 金沢城調査研究関係機関連絡会

各機関の代表者を招き、平成30年6月20日に開催した。金沢城調査研究所からは、今後の調査研究事業の計画、最近の主な成果（刊行物等の紹介など）及び鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査成果などを報告した。

また、東京大学埋蔵文化財調査室から江戸本郷邸の調査（東京大学構内）について、（公財）石川県埋蔵文化財センターから金沢城下における瓦葺き屋根について、金沢市文化財保護課からは平成29年度の発掘調査事業の調査状況や報告書刊行事業等について報告があった。その他、情報交換を行い、今後とも連携を密にして調査研究事業を進めることとした。

【出席者】

住田 高市	公益財団法人 前田育徳会尊経閣文庫常務理事
吉竹 泰雄	公益財団法人 成巽閣館長
堀内 秀樹	東京大学埋蔵文化財調査室
岩見 雅史	金沢大学附属図書館長
楠 正勝	金沢市埋蔵文化財センター所長
小西 昌志	金沢市立玉川図書館近世史料館
宮崎 良則	石川県立歴史博物館副館長
藤田 邦雄	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター所長

金沢城調査研究委員会委員名簿（◎委員長）

氏 名	役 職 名	備 考
◎平 井 聖	東京工業大学名誉教授	建 築
嶋 崎 丞	石川県立美術館長	美術工芸
中 村 利 則	京都造形芸術大学大学院客員教授	建 築
飛 田 範 夫	元長岡造形大学教授	庭 園
吉 岡 康 暢	国立歴史民俗博物館名誉教授	考 古

金沢城調査研究専門委員会委員名簿（◎専門委員会委員長）

分 野	氏 名	役 職 名
絵図・文献	◎宮 崎 勝 美	元東京大学史料編纂所教授
	袖 吉 正 樹	金沢市立玉川図書館司書
	竹 松 幸 香	前田土佐守家資料館学芸員
建 造 物	◎中 村 利 則	京都造形芸術大学大学院客員教授
	河 田 克 博	元名古屋工業大学教授
	麓 和 善	名古屋工業大学教授
	増 田 達 男	金沢工業大学教授
	吉 田 純 一	FUT 福井城郭研究所所長
埋蔵文化財	◎吉 岡 康 暢	国立歴史民俗博物館名誉教授
	久 保 智 康	京都国立博物館名誉館員
	千 田 嘉 博	奈良大学教授
	森 島 康 雄	京都府立丹後郷土資料館資料課長
伝 統 技 術 (石垣)	◎北 野 博 司	東北芸術工科大学教授
	市 川 浩 文	佐賀県教育庁文化財課文化財調査担当係長
	金 田 明 大	国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長
	西 形 達 明	関西地盤環境研究センター顧問
	宮 里 学	山梨県埋蔵文化財センター副主幹・文化財主事

3 職 員

名誉所長	北垣聰一郎	非常勤嘱託	岩井紀美子
所長	木越 隆三	〃	知田真衣子
副所長	栃木 英道	〃	矢部 史朗
担当課長	富田和氣夫	〃	北島 俊
〃	石野 友康	〃	大川 拓也
主幹	滝川 重徳	〃	道言 瑞希
〃	柿田 祐司		
〃	大西 顕		
企画管理専門員	坂谷 知信		
調査研究専門員	西田 郁乃		
〃	安中 玲美		
〃	荒木麻理子		
〃	加藤 克郎		
企画管理専門員	空 良寛		
主任主事	大西 泰正		

4 分掌事務

- ・ 所事務の総括に関する事
- ・ 調査研究の総括に関する事
- ・ 所員の服務に関する事
- ・ 公印の管守に関する事
- ・ 調査研究委員会等の運営に関する事
- ・ 発掘現場の労働安全衛生に関する事
- ・ 関連部局との連絡調整に関する事
- ・ 絵図・文献の調査研究に関する事
- ・ 『編年史料』等の編纂に関する事
- ・ 普及啓発に関する事
- ・ 城郭庭園等の総合研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 関連城郭等との連携に関する事
- ・ 鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 発掘調査報告書の作成に関する事
- ・ 金沢城の魅力発信に関する事
- ・ 埋蔵文化財資料（遺構・遺物等）の集成に関する事
- ・ 施設・物品・出役の管理等に関する事
- ・ 石垣保存管理技術等の総合研究（石垣カルテを含む）に関する事
- ・ 埋蔵文化財発掘調査報告書の作成・刊行に関する事
- ・ 資料の保存管理・公開活用に関する事
- ・ 情報化の推進に関する事
- ・ 記録資料及び出土品等の収蔵管理に関する事
- ・ 伝統技術（石垣）の調査研究に関する事
- ・ 『研究紀要』等の刊行に関する事
- ・ 電子情報発信に関する事

Ⅱ 事業報告

1 金沢城調査研究事業

(1) 総合研究事業等

ア 城郭庭園等の総合研究－切石積石垣確認調査－

事業概要

平成 29 年度より、庭園の構成要素の一つである切石積石垣の確認調査に着手した。本事業は、埋没している初期の切石積石垣を発掘して、出現期の実態（場所・意匠・技術等）を明らかにし、外観や意匠を重視した「見せる石垣」が生み出された技術的・社会的背景を探ることを目的とする。

平成 30 年度は玉泉院丸南東調査区において、石垣の基礎部の発掘を行った。

なお、調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の現地指導を受けた。

調査期間 平成 30 年 5 月 21 日～8 月 31 日 調査面積 38m²

現地公開 平成 30 年 8 月 25 日

調査の成果

・池南東部で本来の石垣の規模を確認した。

玉泉院丸庭園の池南東部でいもり坂下石垣の根元を掘り下げたところ、石積みは現地表下約 3.8 m まで続いていた。明治期に撤去された上部の石積みを含めると、本来の石垣高は現況の 3 倍以上（約 7.5 m）と復元される。

・作庭初期の石垣を確認した。

石垣は地上部及び埋没部の大部分が切石積で積まれているが、基部の 3 段分は粗加工石積であった。この石積みは、石材加工や積み方の特徴から、上部の切石積（5 期（寛文～元禄年間頃、17 世紀後半））に先行する時期（4 期（寛永年間頃、17 世紀前半））に位置づけられ、これまで評価が定まっていなかった作庭初期（寛永 11 年・1634）の石垣の一部と考えられる。

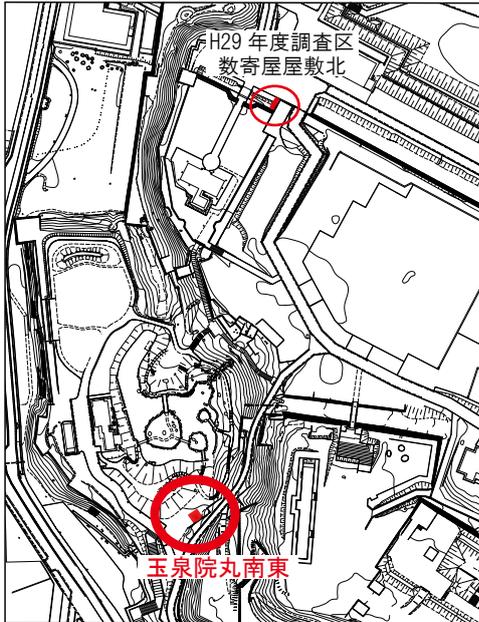
・切石積石垣の出現時期を特定した。

これにより、池岸の石垣は、作庭後しばらくしてから石垣の基部を残して積み直され、現状の切石積となったことが確認できた。その時期は、城内石垣との対比から、17 世紀後半と推定される。

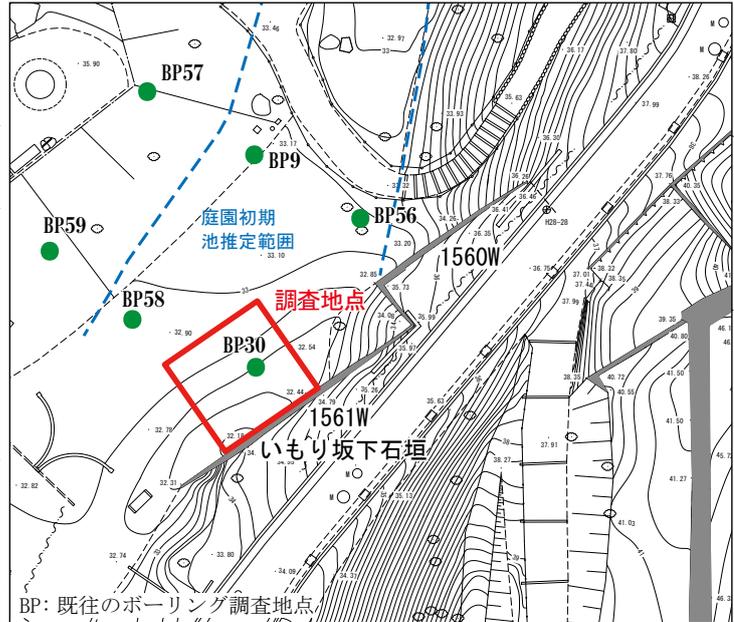
・石垣が庭園と一体的に整備されたことが明らかとなった。

石垣改修と同時になされた盛土造成により、作庭当初は石垣際まで広がっていた池の汀が後退し、石垣と池との間が部分的に陸地化したことも明らかとなった。

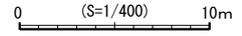
石垣の切石化は、庭園の大がかりな再整備の一環として実施され、初期の庭園景観を刷新して、切石積石垣の庭が成立したと推察される。



調査箇所位置図 (S=1/4,000)



調査区の詳細位置 (S=1/400)

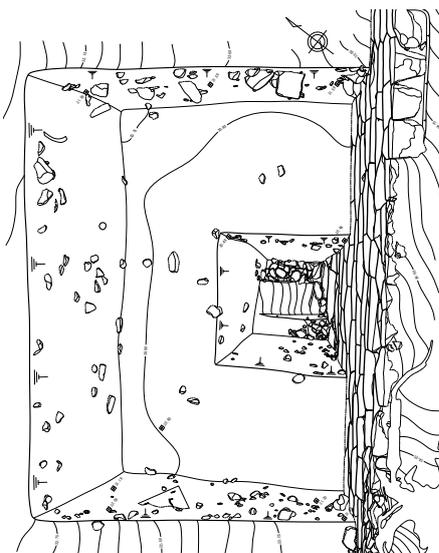


金沢城中地割絵図 甲号(玉泉院丸) (加筆済) [金沢市立玉川図書館蔵]

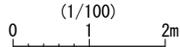
調査箇所と近世前期の絵図



調査着手前状況 (西から)

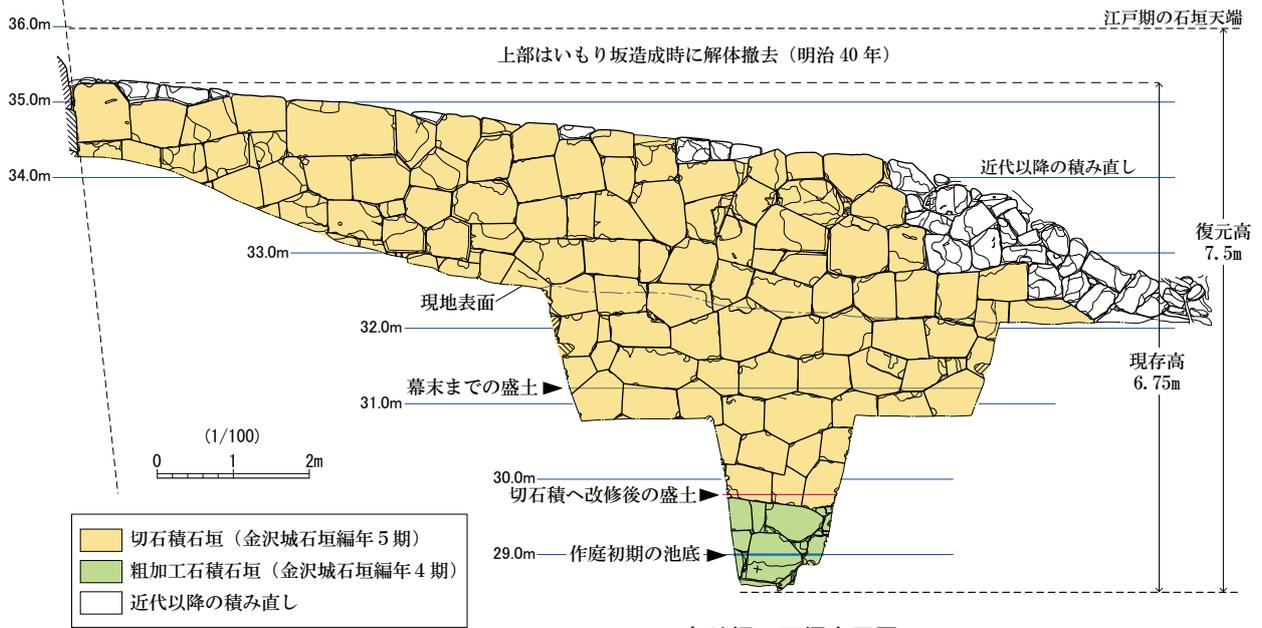


調査区平面図



調査区全景 (西から)

切石積石垣確認調査概要図 1



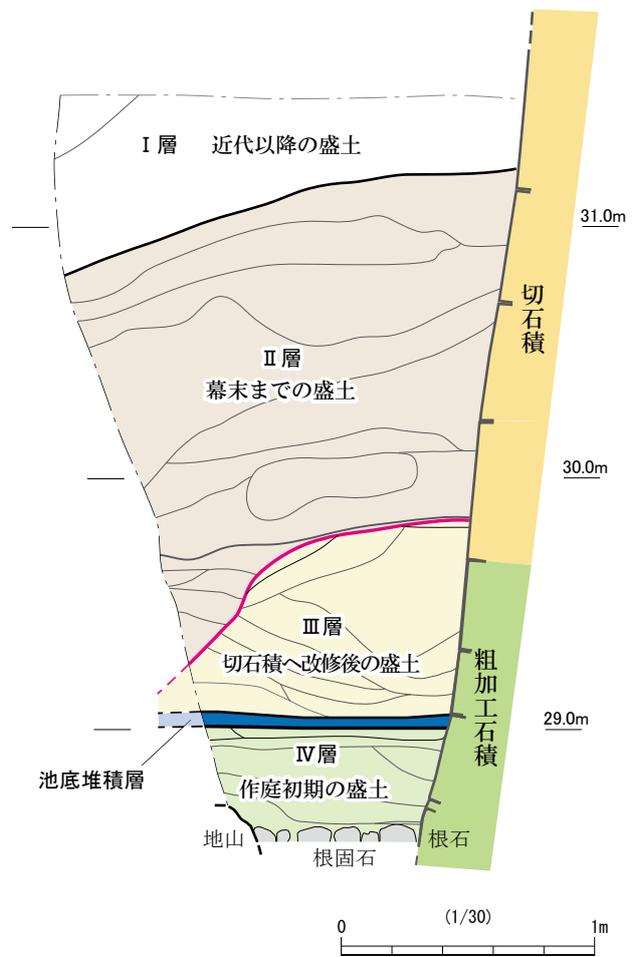
いもり坂下石垣立面図



切石積 (5 期) と粗加工石積 (4 期)



石垣前面の盛土と根固石



石垣前面の盛土断面図

切石積石垣確認調査概要図 2

イ 石垣保存管理技術等の総合研究

事業概要

平成30年度は、石垣の保存状態に関する詳細調査を実施するとともに、保存修理の現場における石材補修技術等について調査した。

主な成果

① 石垣の保存状態に関する調査

a 内部変異

目的：石垣の内部に発生する変異の実態把握

方法：石垣の隙間から小型カメラを挿入し、内部の様子を撮影

対象：①変形が顕著な石垣 計76地点

・水ノ手門続石垣（文禄） 12地点

・東ノ丸附段石垣（元和～江戸後期） 26地点

・いもり坂脇石垣（寛文～近代） 38地点

②顕著な変形がみられない石垣 計72地点

・本丸南高石垣（慶長・寛永ほか） 49地点

・土橋門続石垣（寛文） 23地点

結果：1 変形が顕著な石垣では、石材の間に割れた栗石（写真1）が頻発し、栗石層に土砂が混在する地点（写真2）があった。

場所によっては、石材の胴割れ、栗石の緩み、石材間の空洞（写真3）が認められた。

2 顕著な変形が認められない石垣でも栗石割れ（写真4）、土砂（写真5）、石材胴割れ、空洞部（写真6）が確認された。

出現頻度は、栗石割れが変形石垣の半分程度と明らかな差があったが、胴割れや空洞は同程度だった。

石材左右の隙間が広く空洞になっている状態は、割石を乱積する慶長期の石垣に多発傾向が認められ、規格化した粗加工石を布積みする寛文期石垣では稀であった。

3 内部観察による変状確認は、石材の形状や積み方等、対象石垣の技術的な特性を踏まえて観察することが有効と考えられた。

b 変形動態

・三次元データの差分比較による経年変化の実態把握

いもり坂脇石垣（北、西面）を対象に、H19とH29の三次元計測データを差分比較し、変形部位と変動部位を比較検討した。

その結果、孕み出し量図に反応していない部位でも、実際には変位が進行していることが判明し、差分比較による動態把握の有効性を確認した。

② 検討会の開催

・伝統技術（石垣）専門委員会委員等による検討会を開催した。

第14回検討会（10月22日）

【講義】「石垣の常時微動計測について」山中稔（香川大学教授）

【報告・検討】『金沢城の石垣の保存管理及び保全対策に係る計画書』について
丸の内園地石垣の既存データの検討

第15回検討会（3月18日）

【報告・検討】平成30年度石垣実態調査成果の報告
丸の内園地の石垣の近況

写真1



割れた栗石

水ノ手門続

写真2



裏込めに土砂混在

いもり坂脇

写真3



石材間の空洞（栗石に乱れ）

水ノ手門続

【変形が顕著な石垣】

写真4



割れた栗石

本丸南（申酉櫓下西）

写真5



裏込めに土砂混在

本丸南（申酉櫓下西）

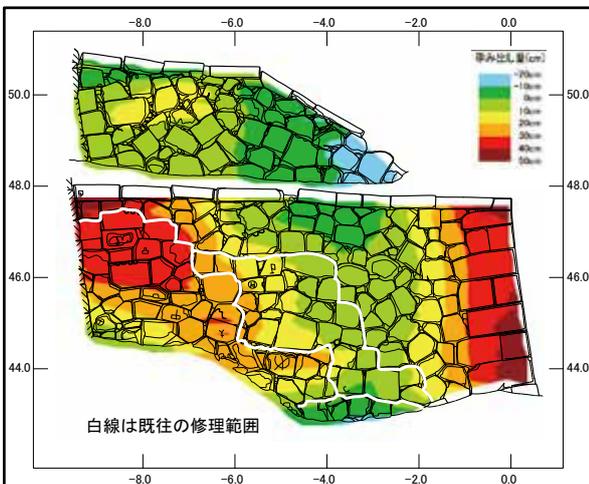
写真6



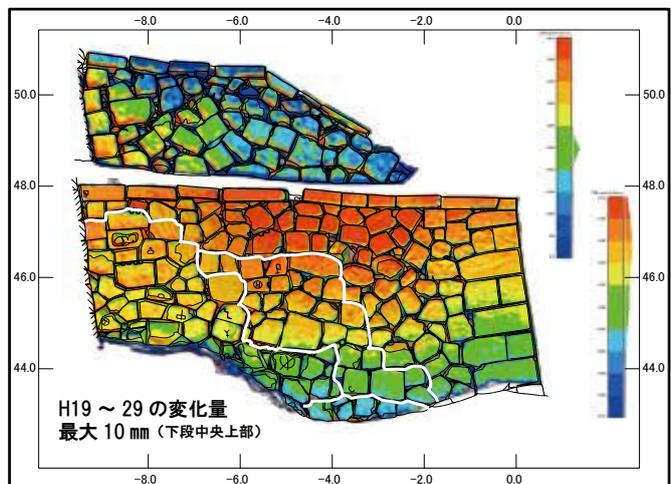
石材間の空洞（背後を大粒礫で閉塞）

本丸南（辰巳下）

【顕著な変形が認められない石垣】



白線は既往の修理範囲



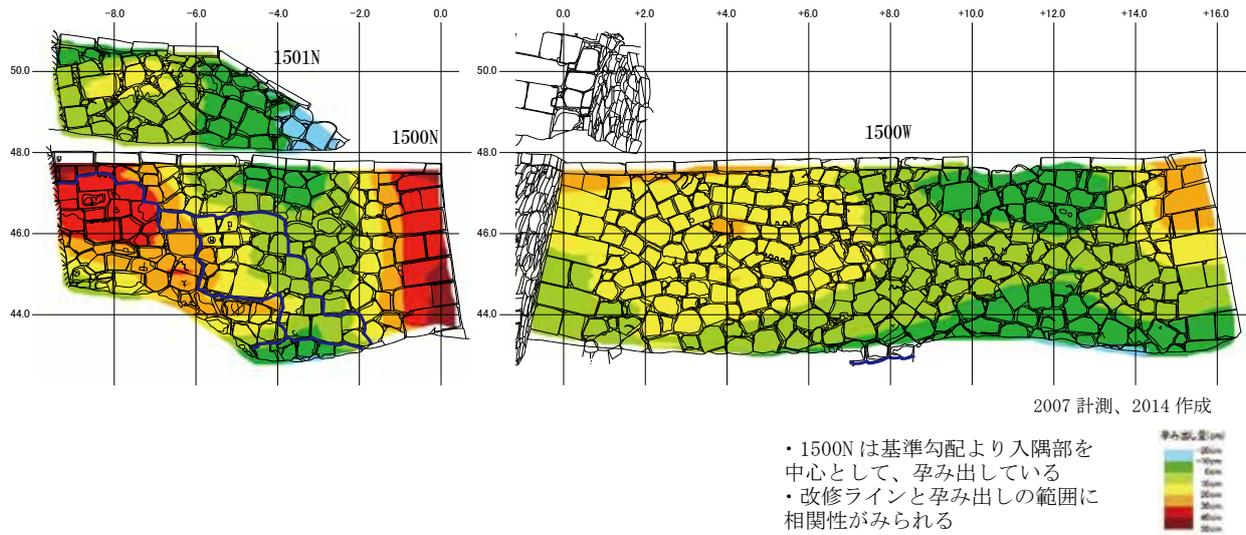
H19～29の変化量
最大10mm（下段中央上部）

【孕み出し量図（左）と経年変化量図（右）】

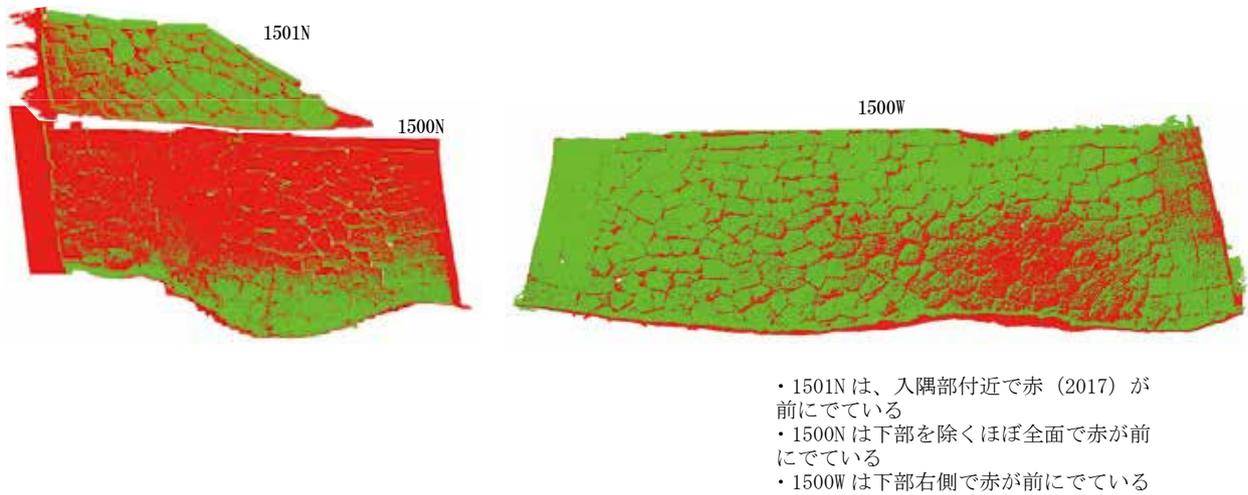
（いもり坂脇北面石垣）

■三次元計測データによる石垣変形の可視化【いもり坂脇石垣（1500N、1501N、1500W）】

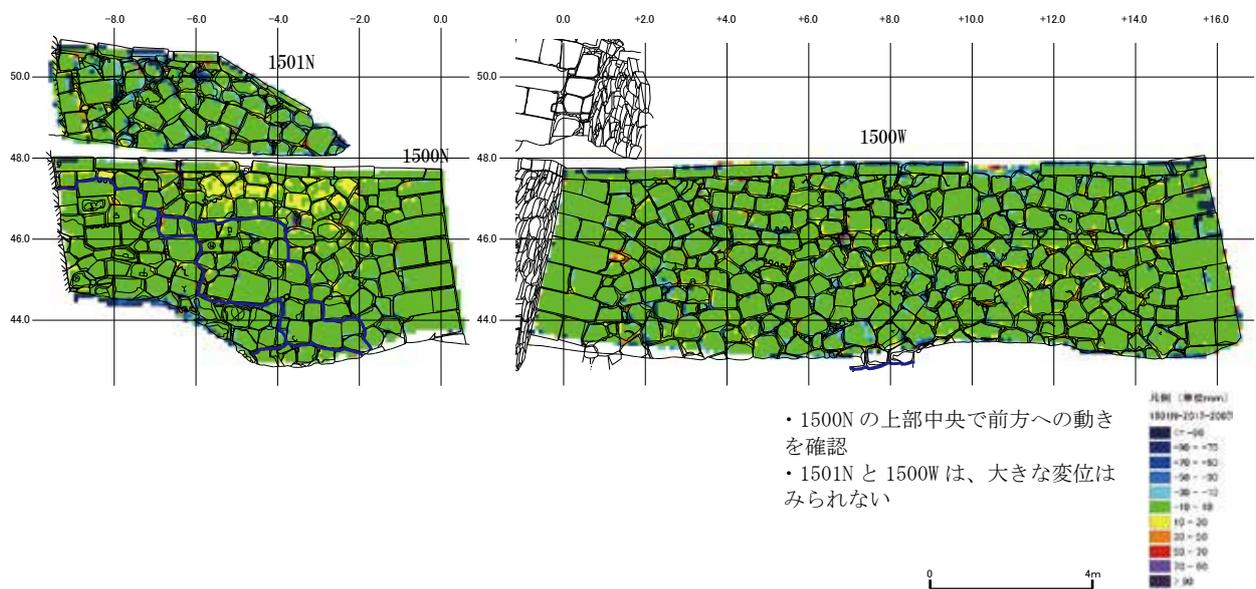
孕み出し量（基準勾配と現状との差を10cm格子で抽出し、10cmごとに分布図化したもの）



点群データ重ね図（赤が濃く出ているところは、2017 計測データが前面に存在（赤色：2017、緑色 2007 計測））

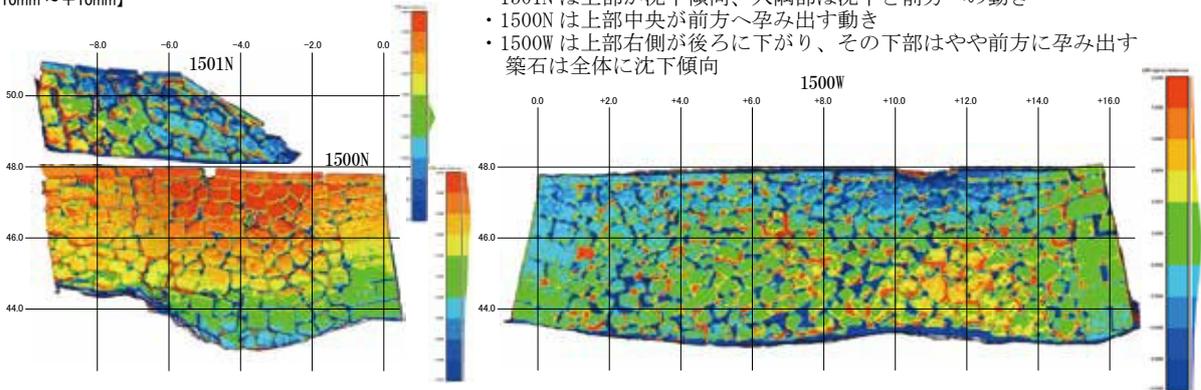


差分比較図（点群データを10cmグリッドに変換し、2時期のデータの前後の動きを把握）



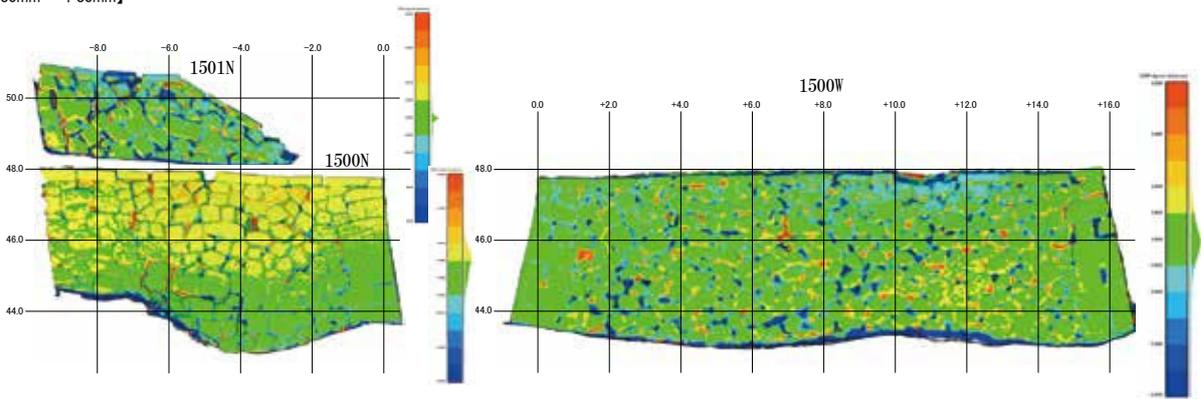
偏差図（点群を TIN メッシュ化して偏差画像を作成）

【-10mm ~ +10mm】

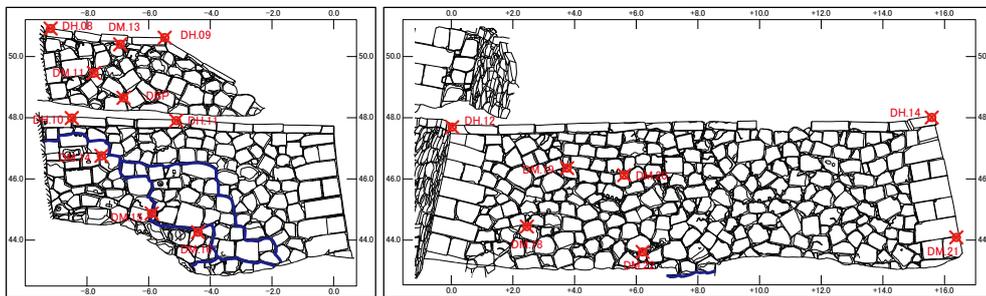


- 1501N は上部が沈下傾向、入隅部は沈下と前方への動き
- 1500N は上部中央が前方へ孕み出す動き
- 1500W は上部右側が後ろに下がり、その下部はやや前方に孕み出す
築石は全体に沈下傾向

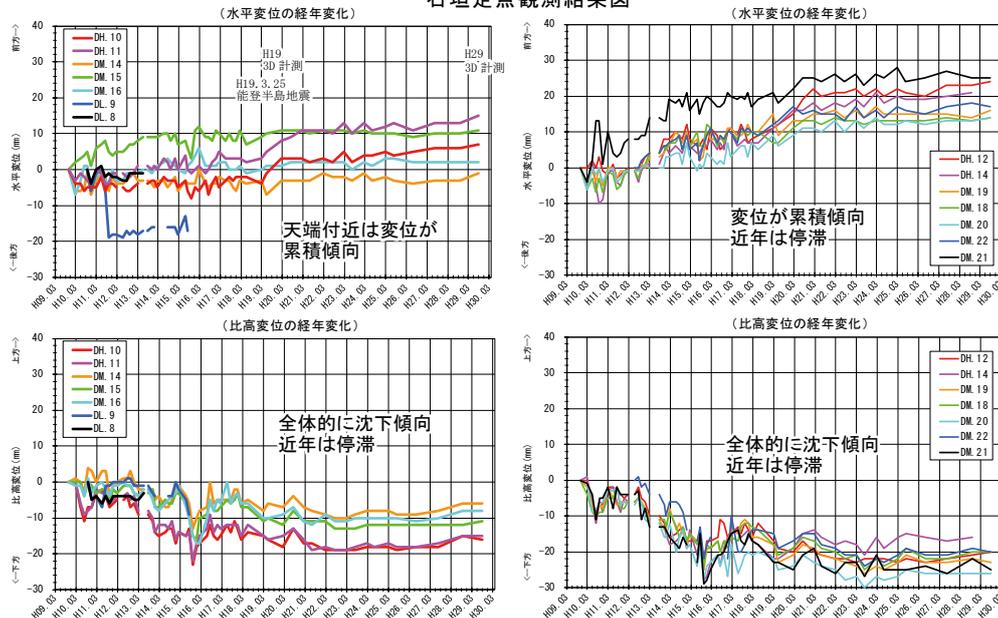
【-30mm ~ +30mm】



石垣定点観測位置図



石垣定点観測結果図



ウ 金沢城関連城郭等との連携

事業概要

金沢城及び金沢城関連城郭・城下等の調査研究に携わる機関が一堂に会して、調査研究に係る情報やその成果を共有し、相互の助言や協力等を行うことで、調査研究手法や技術等の向上を図るとともに、金沢城及び関連する城郭や城下等の特徴や、さらにはそれらの歴史的価値についての理解をより一層深めることを目的として実施している。平成30年度は、各機関の関連城郭等に伴う庭園の調査状況等について、情報連絡会を開催した。

事業内容

情報連絡会の開催

・情報連絡会参加機関

金沢市文化スポーツ局文化財保護課埋蔵文化財センター	(金沢城下他)
七尾市教育委員会事務局スポーツ・文化課	(七尾城他)
小松市にぎわい交流部観光文化課	(小松城他)
加賀市観光戦略部文化振興課	(大聖寺城他)
白山市教育委員会事務局文化財保護課	(舟岡山城他)
富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター	(富山城他)
富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課	(高岡城他)
東京大学埋蔵文化財調査室	(加賀藩邸)

・連絡会の内容等

連絡会は2回開催し、その内容は下記のとおりである。

第1回(報告会) 平成30年7月18日 石川県教育・自治会館、金沢城跡

- ・金沢城関連城郭等にかかる庭園調査等
- ・参加機関による関連城郭等の調査状況
- ・金沢城跡切石積石垣確認調査、鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財確認調査現地見学

第2回(見学会) 平成30年9月19日 金沢城跡、尾山神社、兼六園

- ・金沢城庭園(玉泉院丸庭園・尾山神社庭園(旧金谷御殿庭園)・兼六園)の見学



第1回 報告会の様子



第2回 見学会の様子(兼六園)

エ 「金沢城編年史料」等の編纂

(ア) 事業概要

第1期事業の成果を踏まえ、第2期事業では、総合的な編年史料集の編纂事業を行うこととしている。

平成30年度は「金沢城編年史料 近世一」の刊行にむけて、補足的な調査を行うとともに、編集作業を行った。

(イ) 『金沢城編年史料 近世一』の編集・刊行

平成30年度は、29年度刊行の『金沢城総合年表 前編』をベースとしながら、天正11年(1583)の前田利家の金沢入城から利常が没した万治元年(1658)までの金沢城の出来事や参考とすべき事項について、典拠となっている史料の翻刻を行った。

史料の取載にあたっては、『金沢城総合年表 前編』にあげた典拠史料のうち金沢城の出来事など主だった項目から厳選し取載した。

【主な成果】

7月24日(火) 第1回専門委員会

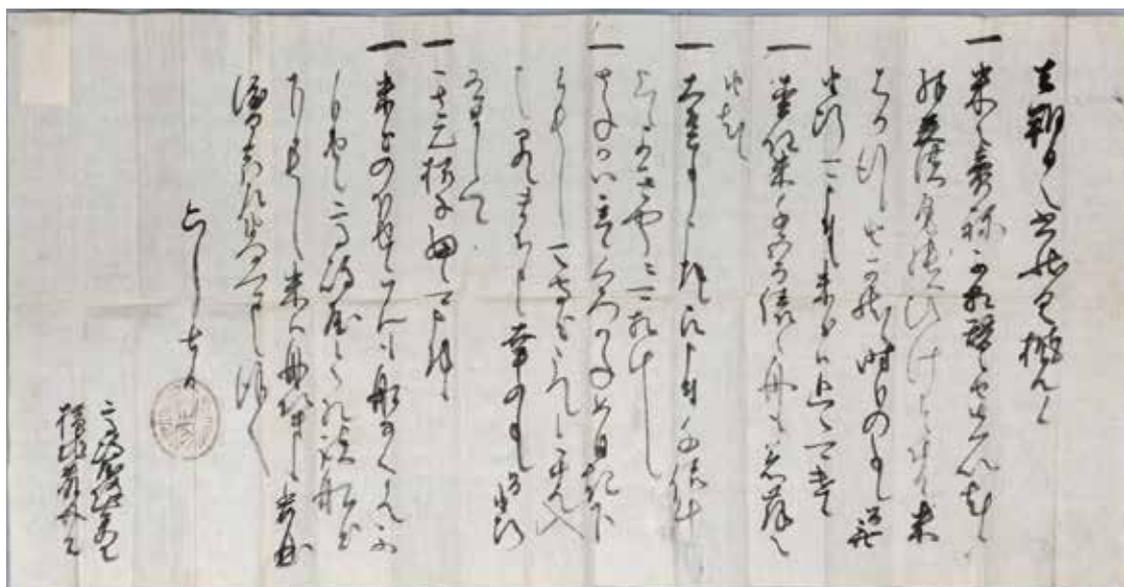
8月 9日(木)

～10日(金) 東京大学史料編纂所・国立公文書館での調査

9月25日(火) 編年史料に係る打ち合わせ(金沢城編年史料編纂協力員)

2月27日(水) 第2回 専門委員会・編年史料編纂協力員合同会議

*なお、金沢市立玉川図書館、石川県立図書館等での調査は随時行った。



石川県立歴史博物館 前田利家印判状(小宮山家文書)

*天正14年(1586)、前田利家は、金沢城の天守建造のため、越前国敦賀の高嶋屋伝右衛門らに対して鉄の輸送を命じた。

(ウ) 調査

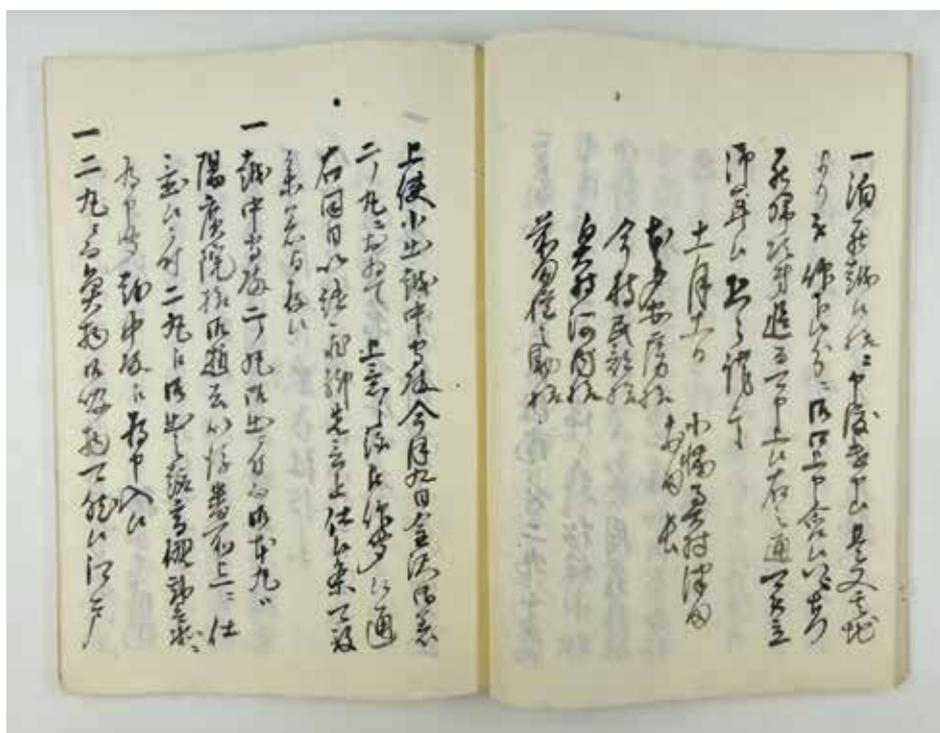
原本確認等のため、県内外の機関の調査を行った。

- ① 金沢市立玉川図書館に所蔵される史料はもとより、石川県立図書館等に所蔵される史料についても原本による確認作業を行った。
- ② 東京大学史料編纂所や国立公文書館等県外の所蔵機関においても確認作業を行った。



金沢市立玉川図書館蔵「乙夜之書物」一

*寛永8年(1631)金沢城は城下からの火災で焼失した。本史料は、この火災についても記す。



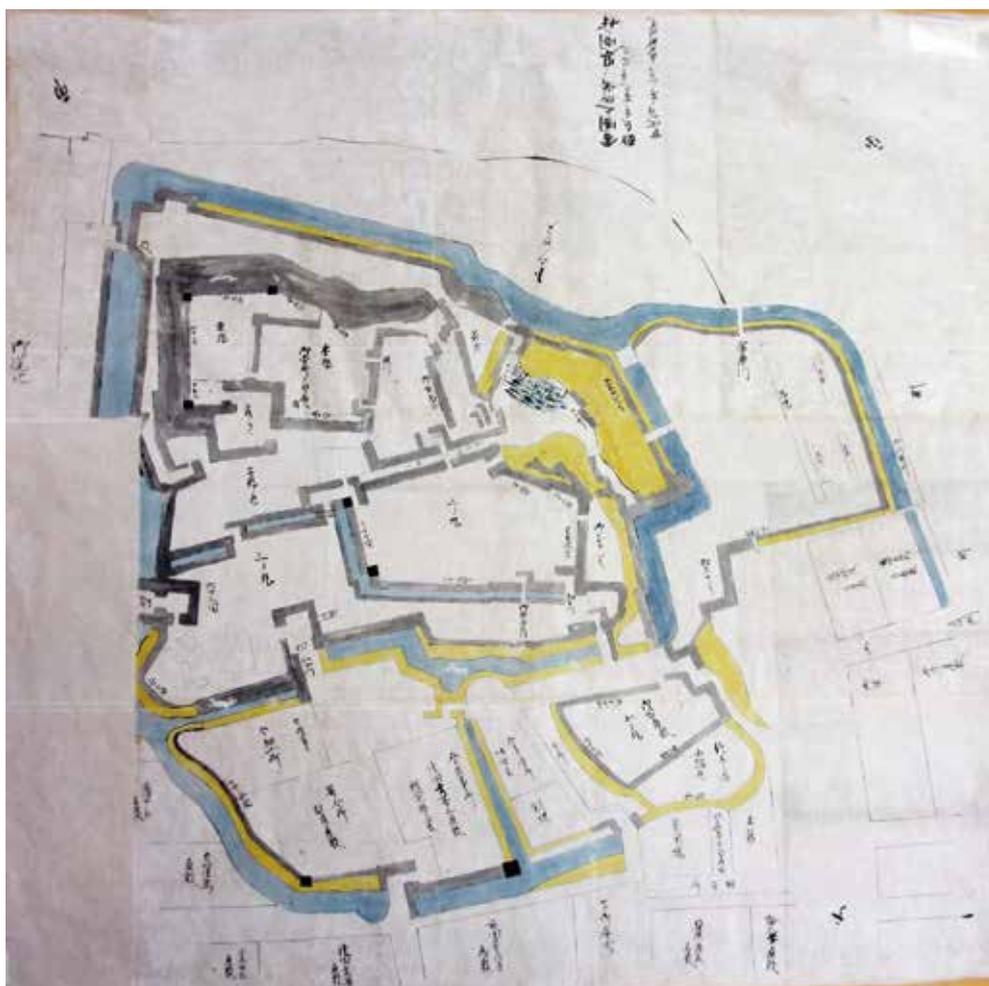
金沢市立玉川図書館蔵「上使」

*万治元年(1658)、三代前田利常の死去に伴い、幕府は上使小出尹貞を派遣した。藩では城内の清掃・修繕を命ずるとともに、到着した尹貞に対し、二ノ丸御殿でもてなしている。

(2) 基礎的調査研究事業等

ア 絵図・文献の基礎的調査

- ・ 玉川図書館等に所蔵される金沢城下町図、金沢城関連城郭の絵図、さらには金沢城関連の写真や絵画史料について、調査を継続して行った。
- ・ 江戸後期の景観を描く二ノ丸御殿絵図の内容検討を行った。
- ・ 江戸後期～幕末維新期の金沢城下町絵図の調査を進めた。



金沢市立玉川図書館郷土資料
「金沢城絵図」

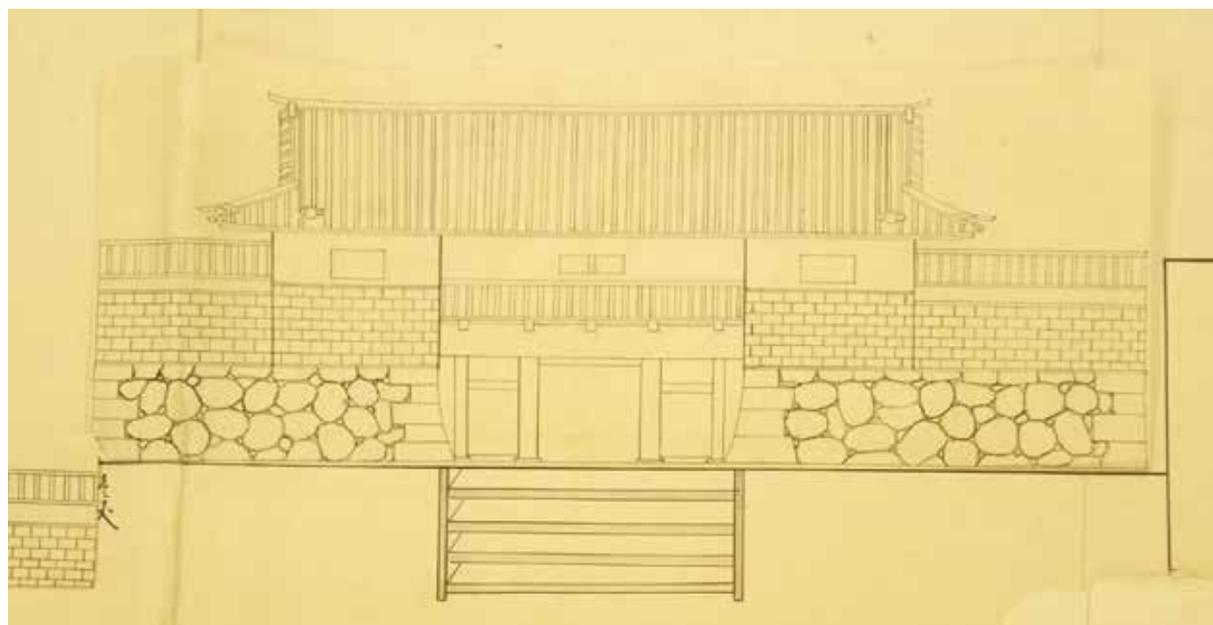
イ 建造物調査

・城門の調査

金沢城の城門の絵図描写について、「金沢城建物起絵図」甲号～丁号（金沢市立玉川図書館蔵）の記載事項の調査を行い、平面図等とともに「金沢城城門図面集成」を作成し、城門研究の基礎資料とした。



「金沢城建物起絵図」の調査風景



金沢市立玉川図書館所蔵「金沢城建物起絵図」丙号 鉄門

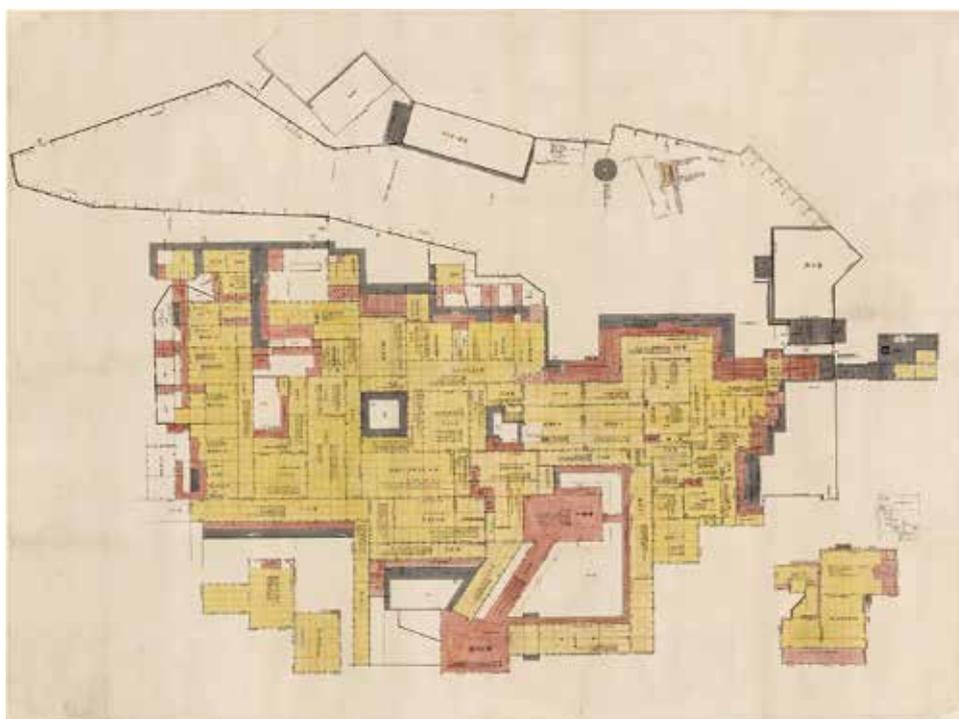
2 金沢城資料収集・デジタル化事業

事業概要

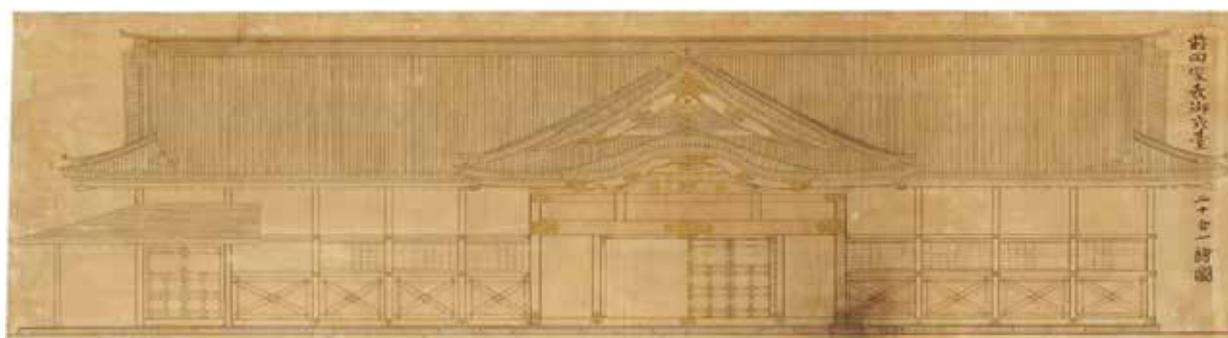
金沢城資料収集事業は、金沢城に関連する城絵図、城下町絵図等の絵図資料の写真撮影を進め、金沢城調査研究の基礎資料として、また情報発信のデータバンクとして活用するため、平成14年度から継続的に進めている事業である。

絵図写真のデジタル化

デジタル化（デジタルデータ化）によって、原寸では難しかった微細な文字情報等の判読といった絵図資料の解析が容易になる。本年度は、金沢市立玉川図書館蔵「金沢城二ノ丸御殿御次内巨細絵図」・「金沢城二之丸御式台絵図」、個人蔵「二ノ丸御殿図」につき、スキャンニングによるデジタル化を行った。



金沢城二ノ丸御殿御次内巨細絵図（金沢市立玉川図書館蔵）



金沢城二之丸御式台絵図（金沢市立玉川図書館蔵）

3 金沢城情報発信事業

事業概要

調査研究事業の成果を情報発信するために、刊行物として研究紀要及びパンフレット、金沢城史料叢書として『金沢城編年史料 近世一』、『金沢城跡－本丸附段・北ノ丸－』の2冊を刊行した。

また、「金沢城大学」・金沢城シンポジウムの開催、金沢城ARアプリの運用、現地見学会や講師派遣を行った。

(1) 研究紀要・パンフレット・史料叢書の刊行

①研究紀要『金沢城研究』第17号（A4判 80頁 800部）

内 容

【特集】金沢城シンポジウム「金沢城の庭園」

基調報告 「金沢城庭園の歴史と特徴」	滝川 重徳
報告1 「加賀藩の支藩の庭園」	飛田 範夫
報告2 「加賀藩とその支藩の江戸藩邸庭園」	栗野 隆
報告3 「城郭内に造営された庭園－赤穂城の場合－」	中田 宗伯
報告4 「戦国城下町一乗谷の館・屋敷における作庭」	藤田 若菜
パネルディスカッション	
(パネリスト) 滝川重徳・飛田範夫・栗野隆・中田宗伯・藤田若菜	
(コーディネーター) 木越隆三	

【論文】

金沢城二ノ丸講書と加賀藩儒者の動向 池田仁子

【研究余録】

前田利長の花押について 大西泰正

②金沢城調査研究パンフレット No.17『古文書から史実を解き明かす』

(A3判 二つ折り 10,000部)

③年報11（平成29年度）（A4判 30頁 600部）

④金沢城史料叢書34『金沢城編年史料 近世一』（A5判 352頁 700部）

⑤金沢城史料叢書35『金沢城跡－本丸附段・北ノ丸－』（A4判 372頁 600部）

(2) 金沢城大学

城と庭の探究講座「金沢城大学」 全て [公開講座]

会場 石川県立美術館ホール

回数	実施日	講 座	講 師
1	10月13日(土)	〈基調報告〉金沢城庭園の歴史と特徴	石川県金沢城調査研究所 滝川 重徳
2	10月13日(土)	〈報告1〉加賀藩の支藩の庭園	元長岡造形大学教授 飛田 範夫
		〈報告2〉加賀藩とその支藩の江戸藩邸庭園	東京農業大学准教授 栗野 隆
		〈報告3〉城郭内に造営された庭園 －赤穂城の場合－	兵庫県赤穂市教育委員会 中田 宗伯

		〈報告4〉 戦国城下町一乗谷の館・屋敷 における作庭	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 藤田 若菜
		パネルディスカッション -金沢城庭園の特徴・支藩・江戸藩邸・他藩の城・ 戦国城館庭園との比較から-	司会：石川県金沢城調査研究所 所長 木越 隆三 パネリスト：講師5名
3	11月8日(木)	綱紀と愛本刎橋	金沢城・兼六園研究会 副会長 越野 洋
4	11月15日(木)	鼠多門・鼠多門橋の発掘調査	石川県金沢城調査研究所 柿田 祐司
5	11月22日(木)	鼠多門の石垣の保存修理について	石川県土木部公園緑地課
6	12月6日(木)	鼠多門・鼠多門橋の復元・整備について	石川県土木部公園緑地課
7	12月13日(木)	兼六園の石組みについて	金沢城・兼六園研究会 幹事 佐野 烈
8	2月7日(木)	利常お気に入りの作事奉行 佃 源太左衛門	石川郷土史学会 幹事 横山 方子
9	2月21日(木)	加賀藩前田家の鷹狩	金沢大学大学院 人間社会環境研究科博士後期課程 林 亮太
10	3月14日(木)	加賀藩の行列	北陸大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 教授 長谷川孝徳

(3) 『金沢城ARアプリ』運用

平成26年3月より配信している金沢城ARアプリ（金沢城・兼六園に関する調査研究の成果や絵図などの歴史・文化情報を提供するスマートフォン用の現地解説アプリケーション）について、近年の外国人来訪者の増加を踏まえて、対応言語を拡大（従来の日本語・英語に中国語（簡体・繁体）・韓国語を追加）するとともに、新機能の追加（音声読み上げ機能・おすすめ見学ポイント表示機能）やコンテンツの拡充（287→300コンテンツ）を図り、金沢城・兼六園の現地解説ツールとしての機能強化を図った。

(4) 講師派遣

- * 金沢大学「日本文化・社会学習プログラム」（4/20）
- * 金沢職人大学校修復専攻科見学研修（4/27）
- * 県政出前講座（金沢西ロータリークラブ）（5/18）
- * 県政出前講座（能美市佐野町公民館）（9/1）
- * 金沢職人大学校修復専攻科（1/18）
- * 奈良文化財研究所文化財担当者専門研修（1/21）
- * 環日本海文化交流史調査研究集会（石川県埋蔵文化財センター）（2/23）
- * 発掘報告会「いしかわを掘る」（石川県立美術館ホール）（3/3）

(5) 金沢城シンポジウム

平成 24 年度に開始した「城郭庭園等の総合研究」の成果の第一弾として、金沢城庭園をテーマにシンポジウムを開催し、調査研究で得られた金沢城の新たな価値と特徴を広く県内外に発信した。当日は県内外から 300 名の参加があった。

期 日 平成 30 年 10 月 13 日 (土)
会 場 石川県文教会館ホール (金沢市尾山町 10 - 5)
主 催 石川県、石川県教育委員会
主 題 「金沢城の庭園 - その歴史と特徴 -」
対 象 一般県民、全国の大名庭園・城郭愛好家及び研究者等

10 月 13 日 (土) 10 : 00 ~ 16 : 30

10 : 00	開会	
	主催者挨拶	藤村一志 (石川県教育次長)
10 : 05 ~ 10 : 20	趣旨説明	木越隆三 (石川県金沢城調査研究所 所長)
10 : 20 ~ 12 : 00	基調報告	滝川重徳 (石川県金沢城調査研究所) 「金沢城庭園の歴史と特徴」
13 : 00 ~ 13 : 30	報告 1	飛田範夫 (元長岡造形大学教授) 「加賀藩の支藩の庭園」
13 : 30 ~ 14 : 00	報告 2	栗野 隆 (東京農業大学准教授) 「加賀藩とその支藩の江戸藩邸庭園」
14 : 00 ~ 14 : 30	報告 3	中田宗伯 (兵庫県赤穂市教育委員会) 「城郭内に造営された庭園 - 赤穂城の場合 -」
14 : 30 ~ 15 : 00	報告 4	藤田若菜 (福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館) 「戦国城下町一乗谷の館・屋敷における作庭」
15 : 10 ~ 16 : 30	パネルディスカッション	「金沢城庭園の特徴 - 支藩・江戸藩邸・他藩の城・戦国城館庭園との比較から -」
16 : 30	閉会	



パネルディスカッション



会場風景

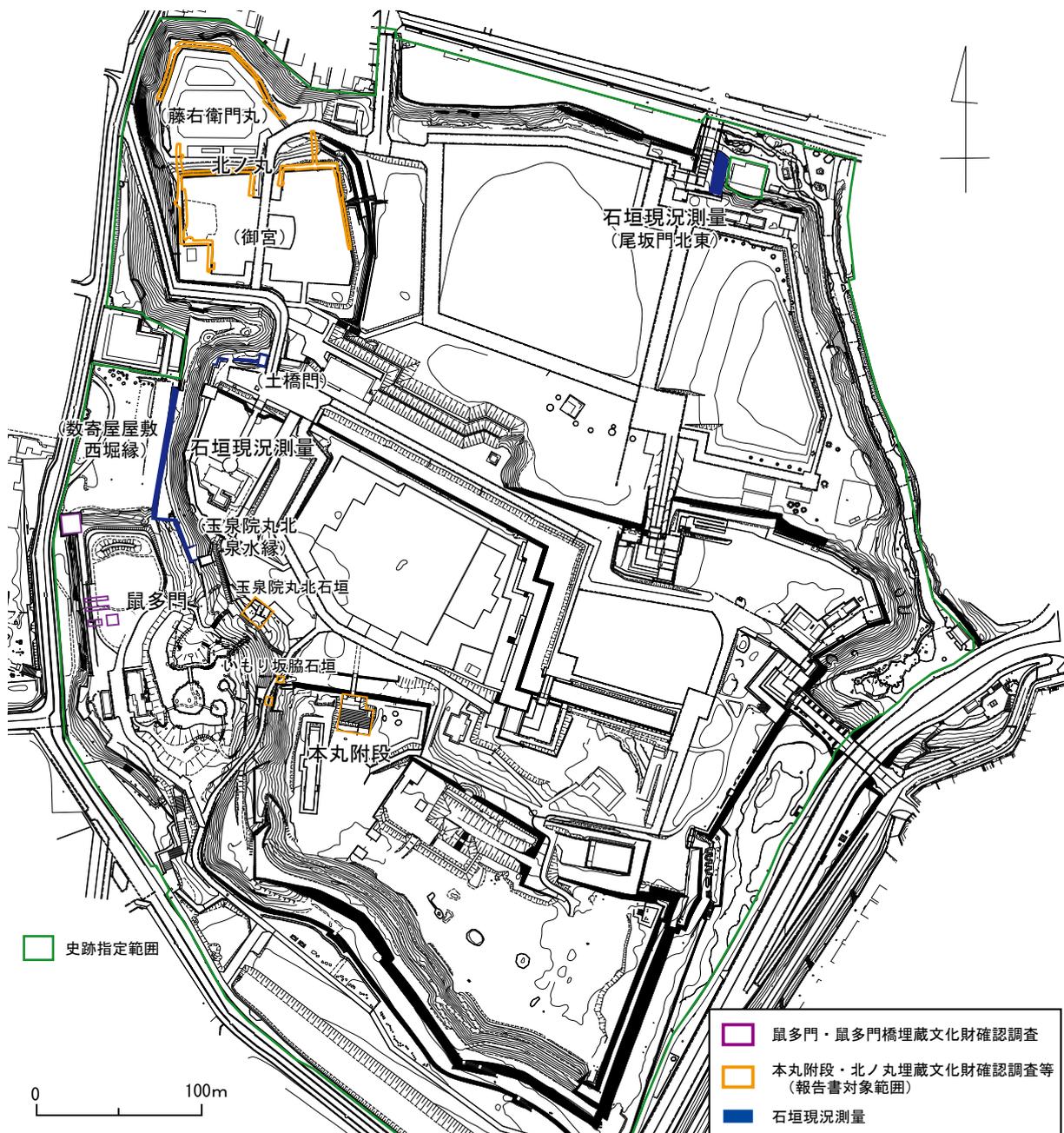
4 その他の事業（金沢城公園整備等に伴う調査等）

（1）事業概要

平成30年度は、金沢城公園整備事業（県公園緑地課所管）に係る鼠多門・鼠多門橋と本丸附段・北ノ丸等の発掘調査及び出土品整理、報告書作成を行ったほか、石垣現況測量を実施した。

鼠多門・鼠多門橋の確認調査は、金沢城公園第三期整備事業に伴うもので、次頁以降に概要を示した発掘調査のほか、平成29年度発掘調査の出土品整理等を実施した。また本丸附段・北ノ丸の埋蔵文化財確認調査（平成10・12年度）、いもり坂脇石垣の試掘調査（平成20年度）、玉泉院丸北石垣の立会調査（平成24年度）に係る報告書を刊行した。

石垣現況測量については、数寄屋屋敷西堀縁、玉泉院丸北泉水縁、土橋門、尾坂門北東石垣の三次元計測等を実施した。



(2) 鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財確認調査

(ア) 調査の概要

調査期間：平成30年4月26日～8月31日 調査面積：120㎡

平成26年度から開始した、金沢城公園第三期整備計画に係る鼠多門・鼠多門橋復元整備に伴う遺構確認調査の最終年度である。これまでに復元整備の基礎資料となる鼠多門・鼠多門橋の範囲や規模、構造を明らかとしてきたほか、鼠多門へ至る坂道の部分についても調査を実施し、その構造等を確認した。5年間の調査面積は累計で2,300㎡である。

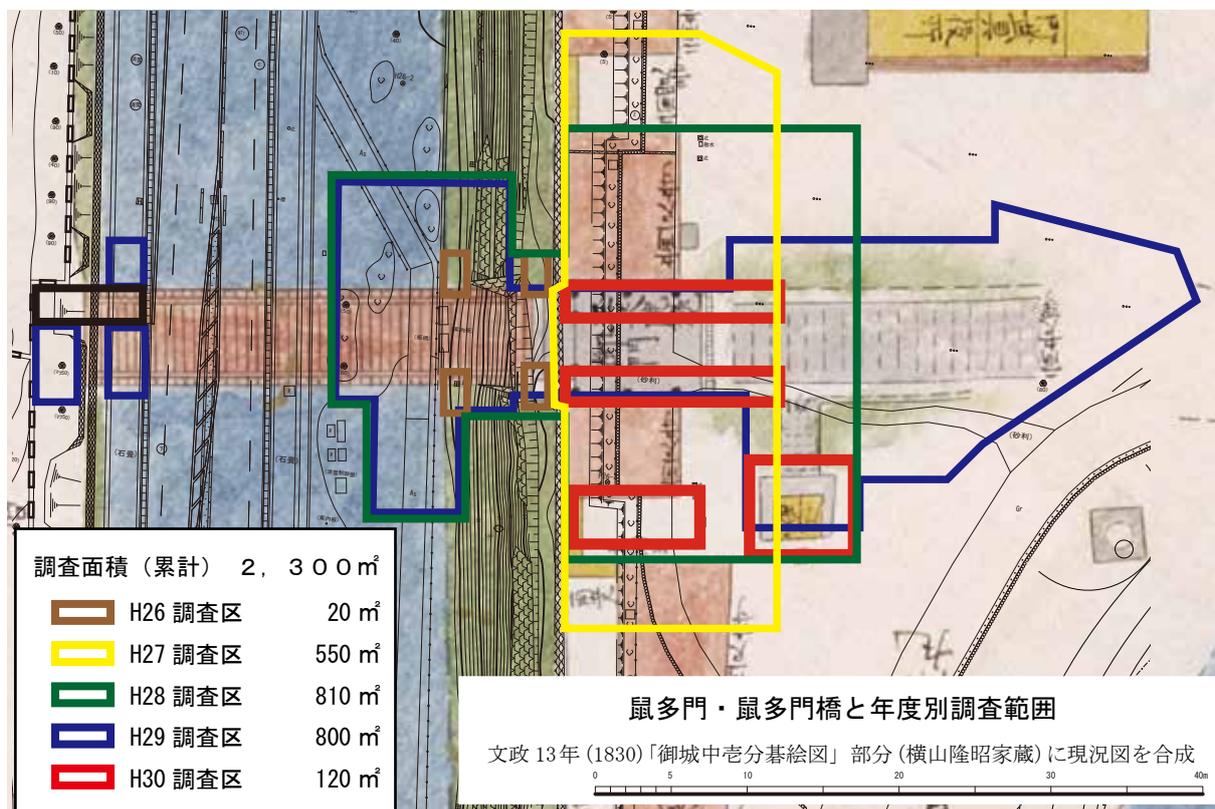
平成30年度は、鼠多門の南東に位置した番所、南側にあった排水施設等についての補足調査、側壁石垣の復元工事に係る立会調査、鼠多門の北側に位置する櫓台石垣の測量調査を実施した。

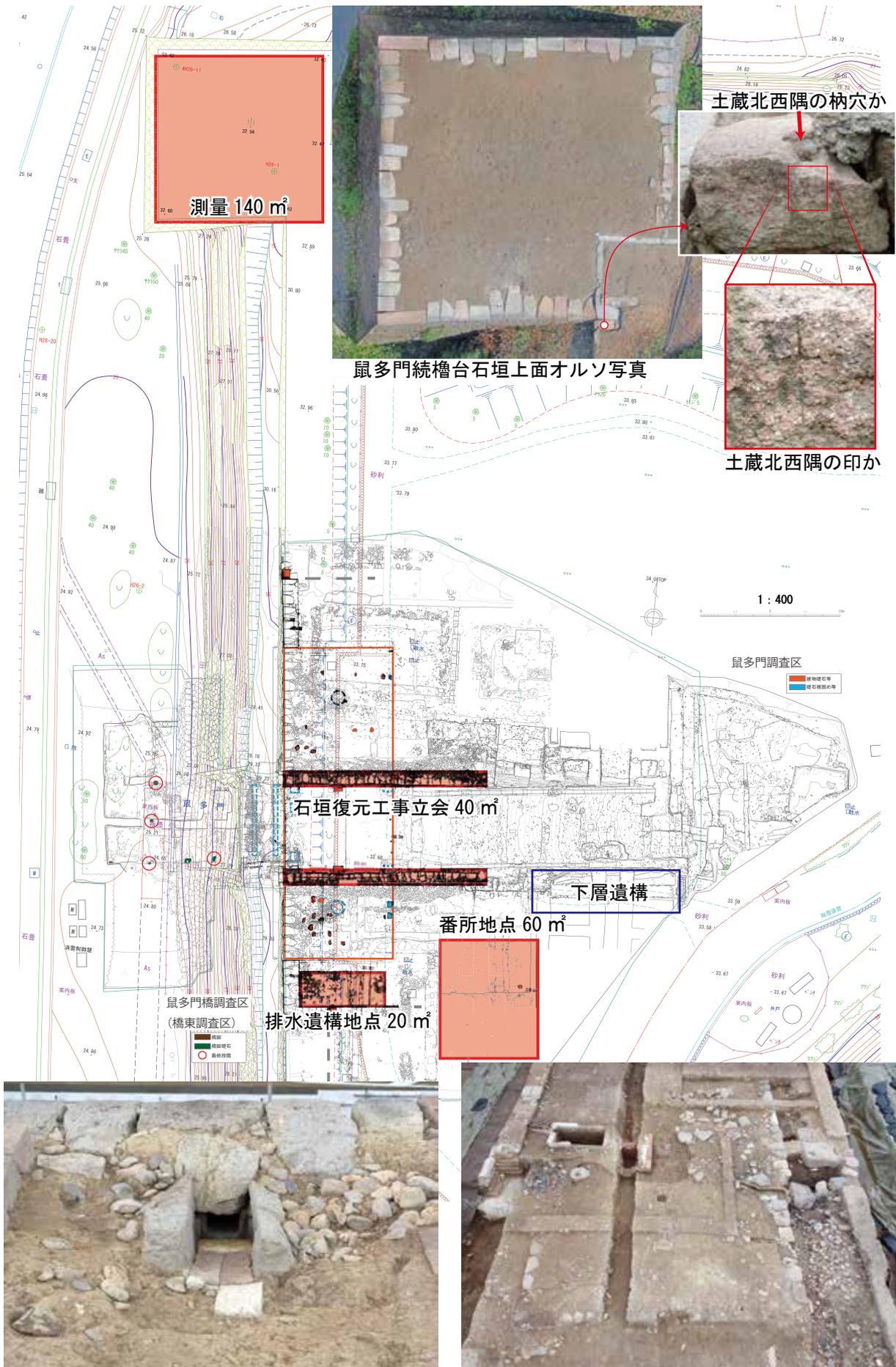
なお、調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の現地指導を受けた。

(イ) 補足調査

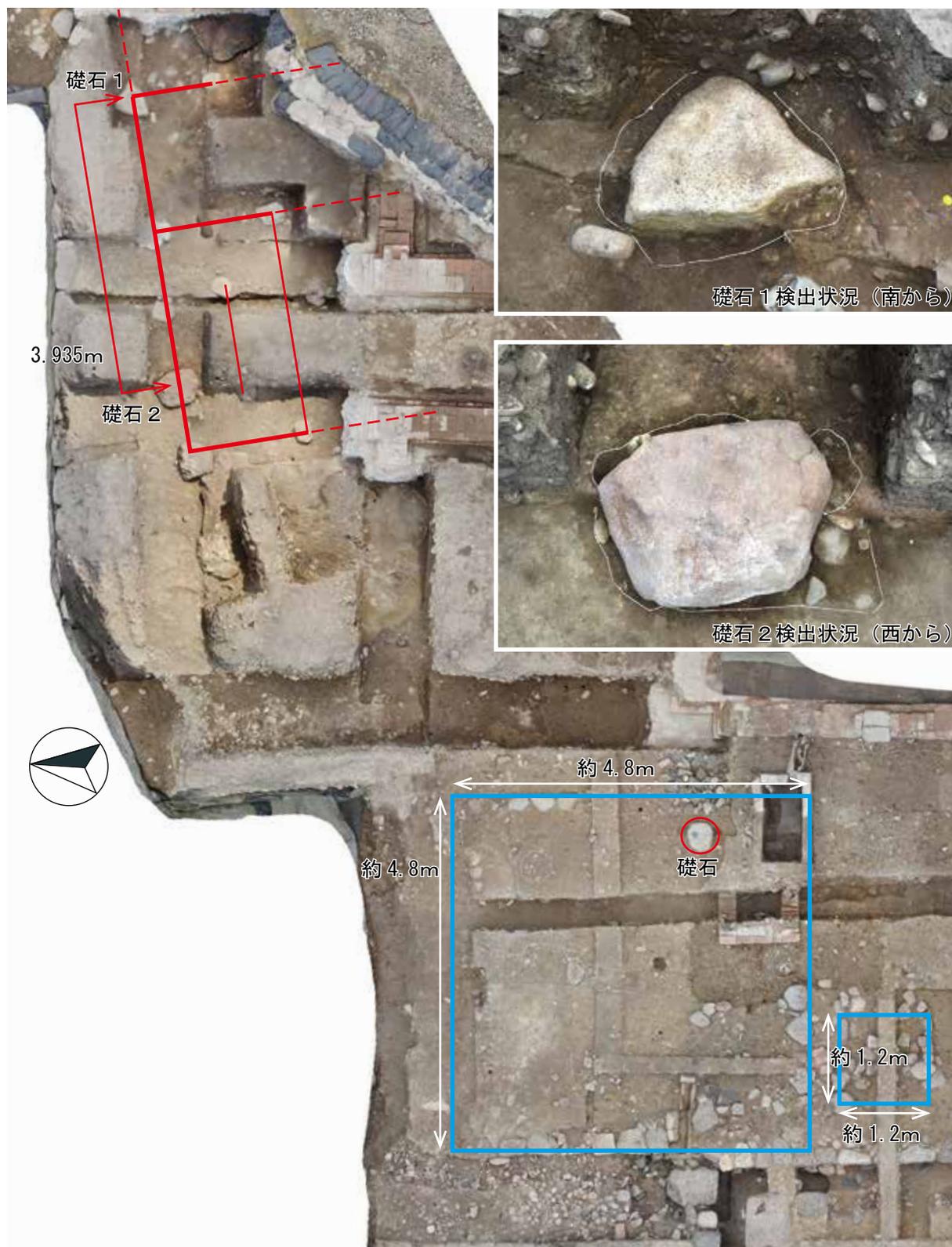
排水遺構地点の調査については、近代に改修された江戸期の暗渠排水を、復元する鼠多門の排水施設の一部として使用することが検討されていることから調査を実施したものである。暗渠排水の吐水口部分は、戸室石製の石樋が鼠多門の西側の石垣から約30cm突き出る構造となっており、その下には受けとなる施設が存在していたとみられるが、調査は未実施である。

石樋の長さは約150cmで、厚さは約50cmあるが、樋となっている部分の内法の幅と深さはいずれも約20cmとなっている。この石樋1石のみが江戸期の遺構であり、これより東側は近代に付加された凝灰岩製と戸室石製の板石となっていた。石樋の傾斜は約1.4°と緩傾斜となっているのに対して、近代に付加された部分は約18°の急傾斜となって、近代の排水溝と接続していたものとみられる。





番所地点の調査については、整備で番所遺構の平面表示をすることから、その位置と規模の把握を目的とした。平成 29 年度の調査において、鼠多門の坂道部から番所へと上がる石段遺構を検出していたことから、番所の概ねの位置については推定できていたこともあり、その範囲について重点的に調査を行った。



番所地点及び下層遺構の全景オルソ写真 (約 S=1/80)



礎石1の墨出し線（罫書線、赤鉛筆で着色し撮影）



礎石2の墨出し線（罫書線、赤鉛筆で着色し撮影）

その結果、番所があった地点は、近代以降の改変を受けていたことから、江戸期の礎石等の遺構の遺存状態が悪く、番所の規模を確定することはできなかったが、番所の敷地を画するとみられる基壇状の遺構を確認した。青線で囲った一辺約4.8mの範囲がそれにあたり、一辺約1.2mの青線で囲った範囲が、番所に付随する厠の範囲と推定した。これらの範囲は石列によって区画されており、使用されている石材は平らな面を外側に向けているものが多く、川原石や戸室石、凝灰岩で構成されている。石段へ向かう北側では石列の遺存状態は悪く、ほとんど残っていなかったが、石材を取り除いたとみられる痕跡を確認した。西側で確認した石列については、途中で軸線がずれており、時期差を示しているものと考えられ、近代になって変えられたものではないかと推定している。

厠の範囲を区画したとみられる部分では、埋甕が存在していたような痕跡は確認していないことから、桶等が直接置かれていた可能性も想定できる。

また、後述する旧陸軍監獄署の建物基礎の下から、平成29年度の調査において、江戸初期にまで遡る可能性のある礎石群を確認していたが、それらについて調査を実施した。

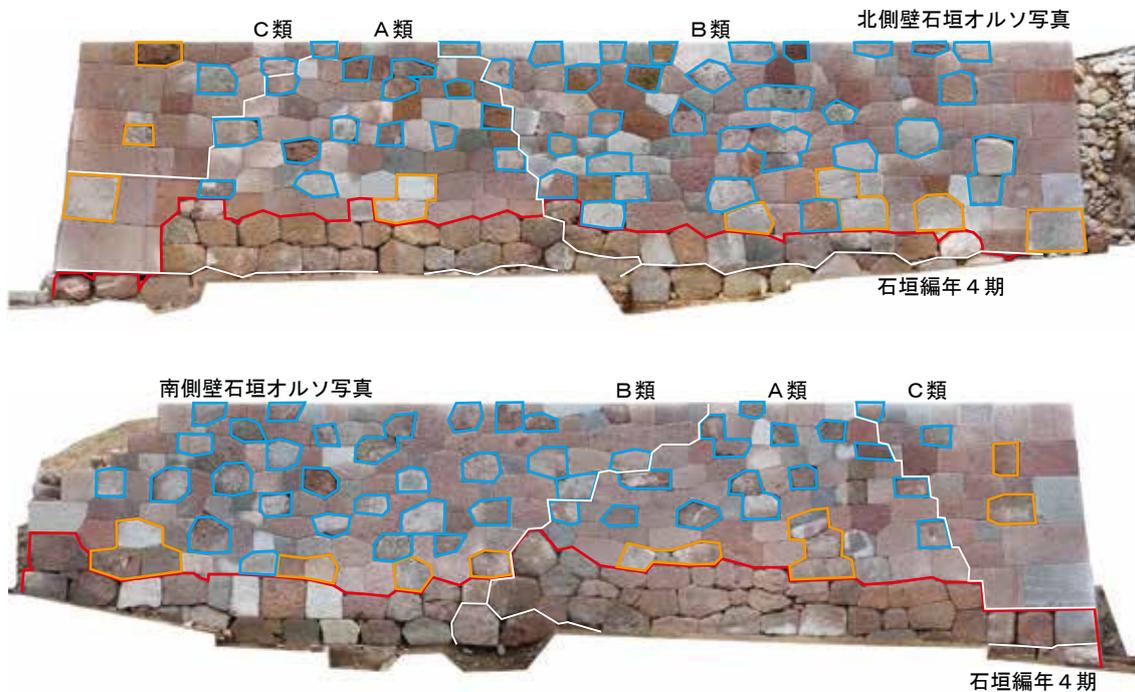
検出した礎石は、いずれも表面が赤く変色しており、被熱しているものと見られる。礎石1・2には墨出し線が見られ、先の固い尖ったもので罫書をしている。礎石1は「十」、礎石2は「十」の周囲を「◇」で囲む。礎石1・2の「十」の中心を結んでその長さを測ると3.935m（13尺）となっていた。今後、整理を進めていくことで、金沢城内で起きた火災との関連を明らかとし、礎石建物の時期をおさえない。

（ウ）側壁石垣復元工事に係る立会調査

これまでの調査により、鼠多門通路部分の側壁石垣は切石積石垣で、上半は明治17年の火災後に取り外され、門開口部を閉塞する石垣に転用されていたことを確認している。鼠多門の復元に先立って、側壁石垣の復元工事が実施されたことから、石垣復元に伴う補足調査、石積過程の記録作成のため立会調査を行った。明治に失われた石垣復元のための配石図を作成するに当たっては、調査で検出した石垣石を出来得る限り原位置に戻すことを目的に、三次元計測を実施した石材を3Dプリンタで出力し、石材の接合関係を確認し原位置特定に努めた。原位置を特定できなかった石材については、調査で確認した石垣の修理履歴（A類：江戸前期、B・C類：江戸後期）をできる限り復元することとし、その加工状況、焼損状況、鉛の付着状況等を詳細に調査した上で配石を行った。

配石図に基づいて石積を行ったが、やむを得ず再加工した転用材についてはその部位を記録し、再加工の状況等について逐次写真撮影をするなどの記録を作成した。

また、一段ごとの写真測量を実施し、石積の状態を詳細に記録したほか、完成後は三次元レーザ計測を実施し、完成直後の状況を記録した。



— 残存石垣ライン — 原位置復旧した転用材 — 再配置した転用材 オルソ写真は $S=1/100$

【記録作業】



配石図と照合し、石積の順番等を記録



石材加工の状況をビデオ撮影



石材調整の状況を写真撮影



新材は年号と石材番号、転用材は調査時の取上げ番号を付した。



石垣の段ごとに写真測量を実施



完成後に三次元レーザ計測を実施

(エ) 近代の遺構

鼠多門の調査では、玉泉院丸にあった近代の遺構も良好に残っていることを確認した。鼠多門が焼失する2年前の明治15年（1882）、玉泉院丸に旧陸軍監獄署の建物が落成した。それらの建物の一部は、戦後金沢大学の施設としても使用されていた。明治32年に建築されたレンガ積の基礎を持つ建物もその一つで、部室として使用され上部は木造となっていた。当初の上部構造は不明だが、レンガはイギリス積みという方法で積まれている。レンガ積の下はコンクリートの布基礎となっており、そのコンクリートを取り除いた直下に、前述した礎石群を検出した。

ほかに確認した近代の建物遺構の基礎は、布掘の中に大きめの礫を土とともに充填し、柱が立つ場所に礎石を置くという構造であり、コンクリート基礎は上部の重量を支えるためと考えられることから、当初は上部もレンガ積であった可能性が高いものと見られる。

また、約9,000点のレンガを取上げ、寸法・重量を計測したほか、外面観察を実施した。刻印は2種類あり、刻書「足羽郡福井」や墨書「泉州堺 上等品」なども見られた。



平成27年(2015)調査空中写真



「金沢衛戍監獄配置図」『建物模様替ノ件』明治39年(1906) 防衛研究所戦史研究センター一蔵

(3) 報告書の刊行

平成 10、12 年度に実施した金沢城公園整備に伴う本丸附段、北ノ丸（御宮・藤右衛門丸）の発掘調査と、平成 20、24 年度に実施したいもり坂脇石垣の試掘調査と玉泉院丸の立会調査についての埋蔵文化財確認調査報告書を刊行した。

『金沢城跡－本丸附段・北ノ丸－』

A 4 判 372 頁、部数 600、平成 31 年 3 月 29 日刊行

例言・凡例・目次	
第 1 章 経緯と経過	第 1 節 調査に至る経緯 第 2 節 調査の経過
第 2 章 歴史的環境	第 1 節 金沢城跡と周辺の歴史的環境 第 2 節 金沢城の沿革 第 3 節 本丸附段・北ノ丸の沿革 第 4 節 既往の調査成果
第 3 章 本丸附段	第 1 節 調査の概要 第 2 節 遺構 第 3 節 遺物 第 4 節 小結 遺構写真図版
第 4 章 御宮	第 1 節 調査の概要 第 2 節 遺構 第 3 節 遺物 第 4 節 小結 遺構写真図版
第 5 章 藤右衛門丸	第 1 節 調査の概要 第 2 節 遺構 第 3 節 遺物 第 4 節 出土人骨の分析 第 5 節 小結 遺構写真図版
第 6 章 いもり坂脇石垣	第 1 節 いもり坂脇石垣の試掘調査 第 2 節 玉泉院丸北石垣の立会調査
引用・参考文献	
報告書抄録	

事業費

平成 30 年度（最終予算額）

（単位：千円）

事業名	事業費
金沢城調査研究所運営費 （金沢城調査研究委員会の開催等）	9,671
金沢城調査研究事業費 総合研究 ・城郭庭園等の総合研究 ・石垣保存管理技術等の総合研究 ・金沢城関連城郭等との連携 ・『金沢城編年史料』等の編纂 基礎的調査研究 ・絵図・文献の基礎的調査 ・建造物の基礎的調査	7,147 284
金沢城資料収集・デジタル化事業費 （絵図撮影等）	1,026
金沢城情報発信事業費 （史料叢書、研究紀要等の刊行）	915
金沢城・兼六園情報発信強化事業費 （金沢城ARアプリのバージョンアップ、 金沢城シンポジウムの開催）	7,000
合 計	26,043
その他の事業費 ・金沢城公園整備に伴う調査	105,363
合 計	105,363
再 計	131,406

石川県金沢城調査研究所日誌（抄）

（平成 30 年）

- 4月 6日（金） 絵図・文献調査開始（金沢市立玉川図書館）（～ 3/29）
4月10日（火） 取材対応（（株）中川政七商店ウェブメディア）
4月12日（木） 名古屋市会日本共産党名古屋市議員団金沢城視察
4月16日（月） 鼠多門石垣整備指導会
4月20日（金） 講師派遣（金沢大学「日本文化・社会学習プログラム」）
4月26日（木） 鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査開始（～ 8/31）
4月27日（金） 講師派遣（金沢職人大学校修復専攻科見学研修）
5月13日（日） 第26回小峰城跡石垣検討委員会（福島県白河市）
5月18日（金） 県政出前講座講師派遣（金沢西ロータリークラブ）
5月21日（月） 切石積石垣確認調査開始（～ 8/31）
6月 1日（金） 第1回埋蔵文化財・伝統技術（石垣）専門委員会
6月10日（日） 金沢城公園鼠多門整備工事起工式
6月20日（水） 金沢城調査研究関係機関連絡会
7月12日（木） 第1回金沢城調査研究委員会
7月18日（水） 文化財建造物保存技術協会金沢城視察
第1回金沢城関連城郭等情報連絡会
7月19日（木） 切石積石垣確認調査に係る現地指導
7月24日（火） 第1回絵図・文献専門委員会
8月 2日（木） 切石積石垣確認調査に係る現地指導
8月4～5日 第27回小峰城跡石垣検討委員会（福島県白河市）
8月 9日（木） 七尾城跡整備基本計画策定委員会
8月9～10日 文献史料調査（東京大学史料編纂所ほか）
8月23日（木） 切石積石垣確認調査 現地説明（報道向け）
8月25日（土） 切石積石垣確認調査 現地公開
8月31日（金） 名古屋城総合事務所金沢城視察
9月 1日（土） 県政出前講座講師派遣（能美市佐野町公民館）
9月 6日（木） 第1回金沢城二の丸御殿調査検討委員会
9月8～9日 第28回小峰城跡石垣検討委員会（福島県白河市）
9月11日（火） 資料調査対応（坂井市教育委員会丸岡城国宝化推進室）
9月19日（水） 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会
9月25日（火） 第1回金沢城編年史料編纂協力員会議
10月 8日（月） 金沢城公園鼠多門橋整備工事起工式
10月13日（土） 金沢城シンポジウム「金沢城の庭園—その歴史と特徴—」
10月17～19日 資料調査（盛岡城跡、弘前城跡）（岩手県、青森県）
10月19日（金） 環日本海文化交流史調査研究事業研究協力者会議

（石川県埋蔵文化財センター）

- 10月22日(月) 石垣保存管理技術等の総合研究に係る検討会
- 10月23日(火) 報告書データベース作成に関する説明会(京都府立京都学・歴史館)
- 10月24日(水) 資料調査(尾山神社)
- 10月27日(土) いしかわシティカレッジ「文化財の保存と活用の推進」
- 10月30日(火) 金沢城跡発掘調査原図借用(金沢大学資料館)
- 11月5日(月) 名古屋市副市長来所
- 11月8日(木) 取材対応(NHK WORLD)
- 11月9日(金) 文化庁調査官現地指導
- 11月12～14日 資料調査(松江城跡、米子城跡、鳥取城跡、舞鶴市立赤れんが博物館)
(鳥根県、鳥取県、京都府)
- 11月15日(木) 金沢城大学
- 11月22日(木) 第2回金沢城二の丸御殿調査検討委員会
- 11月24日(土) 第29回小峰城跡石垣検討委員会
- 12月21日(金) 平成30年度 遺跡整備・活用研究集会(奈良文化財研究所平城宮跡資料館)
- 12月26日(水) 資料調査(丸亀城跡)(香川県)
- (平成31年)
- 1月18日(金) 講師派遣(金沢職人大学校修復専攻科)
- 1月21日(月) 講師派遣(奈良文化財研究所文化財担当者専門研修)
- 1月24～26日 第16回全国城跡等石垣整備調査研究会(和歌山市)
- 2月8日(金) 第3回金沢城二の丸御殿調査検討委員会
- 2月12日(火) 京都府造園組合金沢城視察
- 2月16～17日 第30回小峰城跡石垣検討委員会
- 2月18日(月) 第2回金沢城調査研究委員会
- 2月23日(土) 環日本海文化交流史調査研究集会講師派遣(石川県立歴史博物館)
- 2月27日(水) 第2回絵図文献専門委員会・編纂協力員合同会議
- 3月3日(日) 発掘報告会「いしかわを掘る」講師派遣(石川県立美術館ホール)
- 3月13日(水) 建造物専門委員会
- 3月18日(月) 石垣保存管理技術等の総合研究に係る検討会
第2回埋蔵文化財・伝統技術(石垣)専門委員会
- 3月20日(水) 金沢城跡保存・活用に係る協議(文化庁)
金沢城ARアプリバージョンアップ(5言語対応等)
- 3月26日(火) 金沢城調査研究に関する協議(越前市)

金沢城に関する新聞報道

(平成 30 年)

- 4月 4日(水) 金沢城二の丸御殿 知事「復元は表向から」／鼠多門「五輪までに」(北國新聞)
- 4月 27日(金) 金沢城公園と尾山神社を結ぶ鼠多門、鼠多門橋を復元整備 (北國新聞)
- 5月 17日(木) 鼠多門 来月 10 日起工／県議会環境農林建設委／橋は夏ごろ着工 (北國新聞)
- 5月 20日(日) 二の丸御殿復元図作成／夏にも調査検討委／幕末期の間取り特定 (北國新聞)
- 6月 11日(月) 金沢城鼠多門が起工／東京五輪の 20 年完成／黒漆喰壁の姿復元 (北國新聞夕)
- 6月 15日(金) 金沢城 鼠多門・橋／復元後ライトアップ／10 月から一方通行 (北國新聞)
- 6月 29日(金) 二の丸御殿復元へ異論／金沢城公園整備事業／専門家 史料の少なさ懸念
(読売新聞)
- 7月 12日(木) 金沢城 御殿飾った絵／加賀藩御用絵師・梅田家が描く／県工高に下絵十数点／
「二の丸」「本丸」「金谷」の記載／復元の有力な手掛かりに (北國新聞)
- 8月 26日(日) 石垣の高さ 3 倍あった／玉泉院丸庭園調査／17 世紀後半改修か (北陸中日新聞)
- 9月 7日(金) 金沢城二の丸調査委初会合／県、復元へ検討求める (北陸中日新聞)
- 10月 9日(火) 鼠多門橋 復元整備始まる／20 年完成目指し起工式 (北陸中日新聞夕)
- 10月 14日(日) 金沢城の庭園 歴史に理解深め／金沢でシンポジウム (北國新聞)
- 10月 22日(月) 鼠多門復元の技披露／現代の名工が鉛瓦、なまこ壁 (北國新聞)
- 11月 21日(水) モデル回遊 2 ルート提案／鼠多門と橋復元に合わせ／「庭園」と「建造物」
(北國新聞)
- 11月 22日(木) 鼠多門復元へ鏡柱すく／金沢城公園で立柱式 本格工事始まる (朝日新聞)
- 11月 23日(金) 金沢城二の丸御殿／復元「表向」に注目／県の調査検討委会合／政務の場
江戸後期の姿、詳細に把握 (北國新聞)
- 12月 25日(火) 歴史回遊ルート スマホで案内／多言語表示も計画／県、鼠多門完成に合わせ
(北國新聞)

(平成 31 年)

- 1月 3日(木) 二の丸御殿の「顔」／表玄関、詳細な立面図／県、江戸後期と特定／玉川図書
館が所蔵／「復元へ貴重な史料」／月末にも中間とりまとめ (北國新聞)
- 1月 5日(土) 金沢城鼠多門 4 月に上棟式／知事、年頭会見で方針 (北國新聞)
- 1月 21日(月) 鼠多門復元 見学台で間近に／金沢城公園 (北國新聞夕)
- 2月 14日(木) 二の丸御殿 復元へ前進／中間報告受け 知事が整備検討 (朝日新聞)
- 2月 16日(土) 遺構把握へ掘削調査／金沢城二の丸御殿／内外装の復元に着手／障壁画や飾
り金具を収集 (北國新聞)
- 2月 23日(土) 金沢城二の丸御殿復元／玄関優先「有力な選択肢」／県議会代表質問／知事
が見解 (北國新聞)
- 3月 12日(火) 金沢城 AR アプリ／中国、韓国語にも対応／県調査研究所 今月下旬に配信予定
(北國新聞)
- 3月 18日(月) 復元 真価は県民次第／金沢城二の丸御殿調査検討委員長 藤井讓治氏 (北國新聞)

金沢城調査研究所年報12

(平成30年度)

令和元年6月 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒920-0918

石川県金沢市尾山町10番5号

電話 076-223-9696 FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>